令和6年度 有明高専2年生におけるシンガポール研修報告

谷口 光男・鮫島 朋子・村岡 良紀・田端 亮・山田 高明

＜令和７年１月９日受理＞

Report on second-year students' study tour to Singapore in Ariake Kosen

TANIGUCHI Mitsuo・SAMESHIMA Tomoko・MURAOKA Yoshinori・TABATA Ryo・
YAMADA Takaaki

Ariake Kosen conducted its second study tour to Singapore for second-year students in 2024. It was a part of the training project for young global engineers. This report aims to organize the problems we faced during the tour, and to lead the project in following years to success through the analysis of questionnaire for the students on the tour.

Ⅰ　はじめに

有明高専は，令和元年度から令和５年度までの５年間に「海外研修をスプリングボードにした低学年次におけるグローバルエンジニア養成プログラム」(以下，第１期ＧＥプログラムと略記）を実施した．これは，国立高専機構の「グローバルエンジニア育成事業」(以下，ＧＥ事業と略記）の一つであり，第１期ＧＥプログラムの中核となるのが２年次におけるシンガポール海外研修(以下，ＳＧ海外研修と略記)であった．

第１期ＧＥプログラムは，新型コロナウイルス感染症の影響を受け，当初の計画通りにいかなかったものの，プログラム最終年度の令和５年度に初めてとなるＳＧ海外研修を実施した[1]．

令和６年度からは，国立高専機構が求める新たなＧＥ事業に対し，有明高専は「多段階スプリングボードで『課題を発見し解決する能力』を持つ学生を育てるグローバル人財養成プログラム」（以下，第２期ＧＥプログラムと略記）を開始した．第２期ＧＥプログラムは「各学年・学生に応じたレベルで自らを向上できるスプリングボードとなる各種プログラムを用意し，全学生向けのグローバル人財育成プログラム」を目的とし，４つの柱となる具体的取組みを設定した．第一に「海外派遣プログラムのブラッシュアップ」，第二に「受入プログラム拡大によるキャンパスの国際化」，第三に「英語力強化」，第四に「アントレプレナーシップ教育との協働」である．２年生全員が参加するＳＧ海外研修は，「海外派遣プログラムのブラッシュアップ」として第１期ＧＥプログラムから継続して実施することとなった．

図１　第２期ＧＥプログラムの概念図

図１は「アントレプレナーシップ教育との協働」を除く第２期ＧＥプログラムの概念図で，ＳＧ海外研修が最初の「スプリングボード」に設定されていることがわかる[2]．

[1] 国立高専機構の「グローバルエンジニア育成事業」および第１期ＧＥプログラムについては別稿を参照．『有明工業高等専門学校紀要』第59号，pp.22-25.

[2] 第２期ＧＥプログラムの概要は有明高専ホームページ参照（https://www.ariake-nct.ac.jp/projectge-2）．令和５年度末の時点では，「アントレプレナーシップ教育との協働」についての具体的イメージは構築できておらず，令和６年度以降，導入に向けての具体的検討を予定している．

本稿は，２年目となるＳＧ海外研修の概要と学生によるアンケート結果をもとに，次年度以降の課題を抽出することを目的とする．

Ⅱ　実施方法

１．旅程

ＳＧ海外研修３泊５日の主な日程を表１に示す．

１日目は，７時 30 分に福岡空港へ集合し，10 時に出発，15 時にチャンギ国際空港到着後，バスでマーライオン公園を中心に市内観光を行なった．

２日目は，８時 30 分から３つの観光地（マリーナバラージ，国立博物館，国立植物園）をクラス毎に周遊した．

３日目は，９時からＢ＆Ｓプログラムを実施した．これは，各クラス６班に編成したグループ活動で，各班に１名の現地学生（大学生）をガイドとして，事前に計画したさまざまなスポットを学生自身で巡るというものである．

４日目は，９時 30 分からガーデンズバイザベイを見学後，セントーサ島で班別自主研修を行い，20 時からマリーナベイサンズでスペクタルショーを鑑賞した．その後チャンギ国際空港に移動し，１時 20 分発の便で帰路についた．

５日目は，８時 35 分に福岡空港へ到着後，９時 30 分にクラス毎に現地解散し研修を終えた．

表１　主な日程

日程	主な内容
Day１	移動日，市内研修
Day２	市内研修
Day３	Ｂ＆Ｓプログラム
Day４	セントーサ島研修，スペクタルショー
Day５	移動日

２．主な変更点

昨年度からの日程に関連する主な変更点は，以下の３つである．

第一に，出発の飛行機についてである．昨年度は航空機手配の都合により福岡空港直行便とは別に，羽田空港経由便のグループがあった．今年度も同じ理由で２年生全員が一度に搭乗できないことから，出発日を１日ずらして，先発３クラスと後発２クラスの２グループで，基本的には同じ旅程を進めることにした．

第二に，前回では研修中および研修後に体調不良を訴えた学生が多数出たことから，２日目の市内観光先を４つから３つに減らし，若干ではあるが余裕を持たせることにした．

第三に，食事についてである．昨年度は４日間の現地滞在中，１回の夕食（３日目）のみ学生が自由に済ませることができる一方で，あとは指定のレストランで一斉に中華系の料理をとることになっており，食事に対する学生からの不満が多かった．そこで，今年度は１日目の夕食のみ指定のレストランとし，あとは学生が自由に決められるようにした[3]．

Ⅲ　事後アンケートの結果

研修終了後に実施した学生アンケートの主な結果を以下に示す．

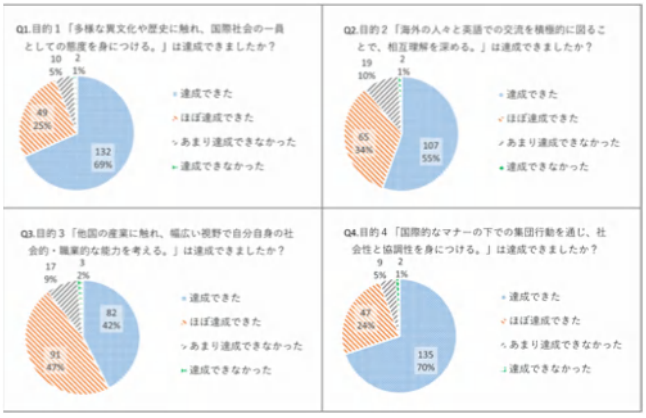

図２　研修の目的について

図２は，ＳＧ海外研修で設定した研修の目的に対する学生の達成度評価の結果である．「達成できた」と「ほぼ達成できた」という肯定的な評価が 90%程度を占めていることから，研修の目的はほぼ達成できたといえる．

[3] ２日目はホーカーセンター（屋台が軒を連ねる施設），４日目はマリーナベイサンズ内のフードコートで学生が自由に食事を選べるようにした．３日目はＢ＆Ｓプログラム中に自由に食事をとることができる点は昨年度と同様である．

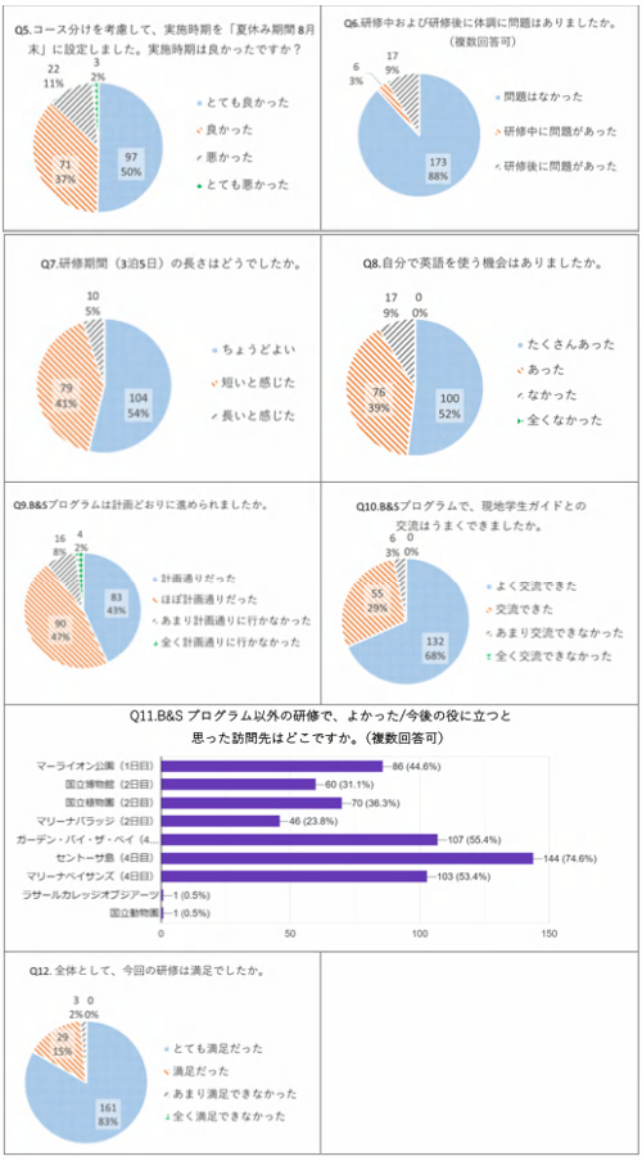

図３　研修全般について

図３は，ＳＧ海外研修全般について８つの設問に対する結果である．Ｑ７以外の設問では「とても良かった」と「良かった」など肯定的な評価が 90%程度を占めている．特に，Q12 の満足度の設問では 98%（昨年度は約 95%）が肯定的な評価をしていることから，ＳＧ海外研修が掲げる「英語の有用性と異文化を体験し学生の向学心を刺激する」ことは，達成できたといえよう．

なお，Ｑ７の研修期間の長さで「短い」と回答した学生が 43%（昨年度は約 33%）であった．これが研修に対する満足度が高いことに起因することは容易に想像できる．一方で，今回は施設（マリーナバラージ）の都合により，急遽，短時間で見学を中止せざるを得ないクラスもあった．また，博物館・植物園などの施設では，展示物をみてまわる時間に個人差が大きく，じっくりみたい学生にとっては短いと感じたことも一因であろう．

Ⅴ　まとめ

２年目となった今年度のＳＧ海外研修では，昨年度のさまざまな課題をもとに，ブラッシュアップを試みた．

入国時の手続きやパスポートの管理など，前回課題になったところが今回スムーズにできたのはよかったといえる．

ＳＧ海外研修で設定した研修目的の達成度評価も，学生の自己評価とはいえ，90%程度が肯定的な評価をしていた．さらに，Ｑ８「自分で英語を使う機会は」についても，前回の80%から91%と上昇していた．これらのアンケート結果は，前回の経験をふまえ事前準備の段階から学生に対する関係教職員の働きかけが功を奏したものと思われる．最終的にＳＧ海外研修に対する学生の満足度がかなり高いものとなっていることから，今回の研修も成功裡に終了したといえるだろう．アンケートとは別になるが，参加学生が帰国後に，「これから英語の勉強を頑張ろうと思います」と語ってくれたのが印象深かった．学生の「向学心を刺激する」にとどまらず，実際の英語力向上につながっていくよう，引き続きＴＯＥＩＣ® ＴＥＳＴＳの結果などを注視していかなければならない．

また，前回は研修中にインフルエンザに罹患するなど体調不良の学生が多数出てしまった．今回では研修中の体調不良者は前回の８％から３％に減少したものの，帰国後の体調不良者は７％から９％に増加している．旅程や食事の見直しがどこまで好影響を与えたかは容易に結論づけられないが，引き続き学生の体調管理にどう努めていくかは検討課題である．

そして，今回の研修で最も課題が浮き彫りになったのが帰国時の台風直撃である．自然災害とはいえ地震などとは異なり，ある程度の予測ができるものである．８月後半の出発を考えれば，台風接近時の対処マニュアルを準備しておくことは，学校としての責務であろう．当然，学校としての「危機管理マニュアル」は策定されており，それとは別にＳＧ海外研修時の想定リスクに対する「対応表」も存在する．しかし,「必要に応じてリスク管理室において協議する」としか定められておらず,「マニュアル」とは到

底よべないものであった．もちろん台風でも，その規模や進路などにより，影響もさまざまである．だからといって，最初からケースバイケースに対応しますでは，現場が混乱するのも必然である．現に，帰国に際し福岡県どころか九州圏内の公共交通機関が停止することになり，学生・教職員の帰宅が困難な状況に陥ってしまってから，「対応を協議します」では不安を増幅させるだけである．前回の研修終了後も，基本的な対処マニュアルを作成し関係教職員間で共有しておく必要性を報告していただけに，ＳＧ海外研修の企画・実施責任者には猛省を促したい．状況が刻一刻と変化する場合に対応を迫られる難しさはあるものの，基本となる「骨子」が明確化されていれば，今回のような混乱は回避可能であろう．

加えて，非常時の緊急連絡体制も見直しが急務である．保護者間の連絡方法が電話のみでは心許ない．また，保護者への一斉連絡に学生を介する方法にも難がある．準備段階において，保護者のメールアドレスを収集，福岡空港までの学生の移動手段を把握するなどの具体的改善策を講じる必要がある．

現地での学生との連絡手段（現行は各クラスの班長に学校からＳＩＭカードを配付），学生の「問題行動（基本的な規則の逸脱）」時の対処，見学先の検討や事前説明会の内容見直しなど，細かいけれども検討に値する項目は多岐にのぼる．

次年度以降のＳＧ海外研修もさらによりよいものにしていくために，本稿が微力ながら貢献できれば幸いである．

謝辞

ＳＧ海外研修は，本学内の多くの教職員の支援を受けて実施された．

引率に同行されたグローバルエデュケーションセンターの山口英一センター長，竹内伯夫副センター長，鷹林将センター員，ゴーチェ・ロヴィックセンター員，村田和穂一般教育科長，学生課の古賀出琉学生支援係員，技術部の堀田孝之技術部員には出発前の打合せから現地でも多大な支援をいただいた．

また学生課の木山博志課長，松本慧子国際係長，奥薗ひろみ国際係員には休日を含む現地対応など多岐にわたる業務で後方支援をいただいた．

ここに感謝の意を表したい．